

ITインフラ監視から、上層(サービス)と下層(物理インフラ)への複合的な統合が可能な RTView®

各種のデータ接続アダプタならびにカスタム・データ・アダプタで、必要なデータすべてを集約

どのような性能データやシステムにも接続できる RTView では、アプリケーション・インフラを支える電源・空調設備などの「物理インフラ層」と、アプリケーション・インフラが支えるビジネス、オペレーション、サービス管理など、さまざまな関連する性能指標データを複合的に集約することが可能です。

たとえば、ビジネス・サービスを支える全世界のアプリケーション・システム全体を RTView で一元監視されているグローバル金融の大手様では、さらに RTView をエンタープライズ・サービス管理システムに接続されています。

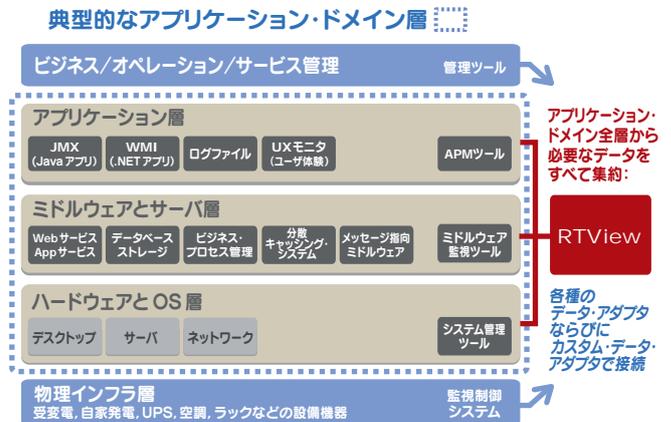
RTView によるアラート監視で問題の修復が必要な場合には、サービス管理システムで「トラブル・チケット」を起動し、修復後には RTView のアラートもクローズされるよう、双方に連動しています。

また国内では、RTView によるサービスを運用しているシステムの性能監視に、ラックなどの設備といった「物理インフラ層」からの監視データを統合し、さらには気象や電力需給状況など、サービスに影響する情報を複合的に可視化して統合されています。

RTView では、XML, SQL (JDBC), JMS, JMX, SNMP, RRD など、各種のデータ接続アダプタを用意しており、既存の性能データは概ねこれらの標準的なデータ・アダプタで接続できますが、いかなるデータも RTView の「カスタム・データ・アダプタ」を使って接続することが可能です。

☆「DCIM (データセンター・インフラ管理)」デモビデオ (0分54秒) :

http://www.sl-j.co.jp/demovideo/ertv/DCIM_demo_video/DCIM_demo_video.html



RTView® を NoSQL データベース MongoDB に接続例【新デモビデオ】

MongoDB は、C++ で MongoDB Inc. が開発したオープンソースの NoSQL データベースです。また NoSQL では珍しくインデックスをサポートしており、高速にクエリを行うことができます。

RTView では、「カスタム・データ・アダプタ」を使って MongoDB に接続できます。デモビデオでは、MongoDB のコレクションをリスト表示 (サーバ ID + 時刻 + 数値データ) し、数値データをグラフやメータに表示、さらにスキーマレス・データ詳細画面にドリルダウンして、各フィールドをリスト表示します。

また、stats コマンドでデータベース、各コレクションの統計情報を表示します。

☆「MongoDB との接続例」デモビデオ (3分24秒) :

http://www.sl-j.co.jp/demovideo/ertv/RTView_MongoDB/RTView_MongoDB.html



RTView® をカスタム・データ・アダプタで PING に接続例【新デモビデオ】

ネットワーク上のノードの疎通確認に使われる ping を利用した「カスタム・データ・アダプタ」の実装例です。ping カスタム・データ・アダプタを使った「ping データの付加」ダイアログで IP アドレスを指定して接続し、疎通確認の結果をテーブルに表示します。

また、ping による疎通確認の結果をキャッシュ化し、RTView のヒストリアン機能によって履歴化します。疎通結果の直近値を色分け表示したり、ping コマンドの標準出力を表示する詳細画面にドリルダウンできるようにしています。そして、キャッシュ化した ping 結果の履歴情報を X 軸が時刻となる横棒グラフで表示し、各ネットワーク・ノードに対応する棒グラフを任意の時刻でクリックすると、キャッシュ化されている履歴データの詳細を確認できるようにしています。

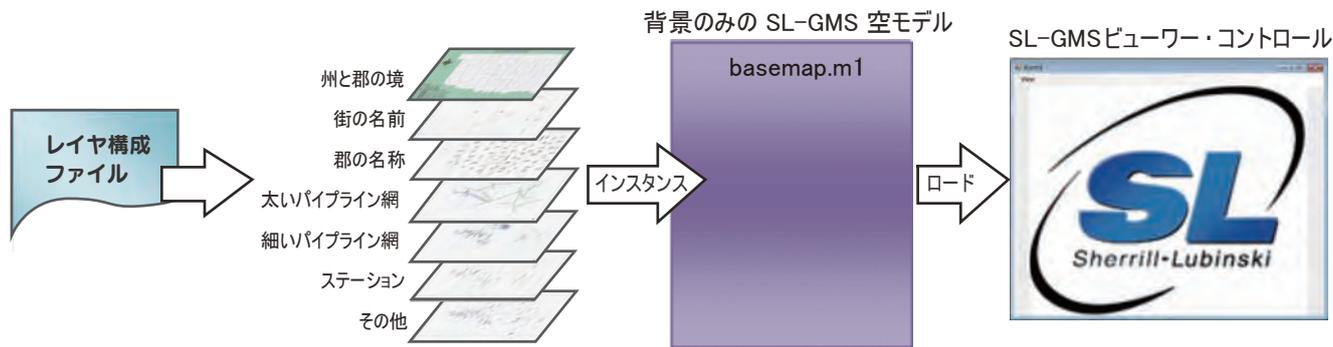
☆「ping カスタム・データ・アダプタの実装例」デモビデオ (2分27秒) :

http://www.sl-j.co.jp/demovideo/ertv/rtview_ping_ds/rtview_ping_ds.html



SL-GMS Developer for .NET での動的なレイヤ構成

SL-GMS Developer for .NET (Microsoft .NET) 製品のチュートリアルには、複数のレイヤを重ね、ズーム率の変化に応じて各レイヤの可視性をコントロールできる技法サンプルがあります。こちらのサンプルでは、予め複数のレイヤを含んだモデルを SL-GMS ビューワー・コントロールに読み込んで表示するものです。さらに、SL-GMS 技術資料「SL-GMS Developer for .NET での動的なレイヤ構成」(2014年5月発行)では、レイヤの構成を SL-GMS モデル内に予めインスタンスせず、外部のレイヤ定義ファイルを読んで、動的にレイヤを生成する技法をご紹介します：



SL-GMS のビューワー・コントロールには空のモデル basemap.m1 をロードしておき、レイヤを定義した外部の構成ファイルから読み込んで、この basemap.m1 の中に各レイヤを動的にインスタンスしていきます。これによって、構成ファイルを編集するだけでレイヤの仕組みを簡単に変更することができるようになります。

新「SL-GMS ドキュメンテーション・サイト」オープン

この度、ユーザー向けの SL-GMS ドキュメンテーション・サイトを新たにオープンいたしました。

同サイトでは、すべての SL-GMS 製品のドキュメンテーション(リリースノート、ユーザーズ・ガイド、リファレンスなど)を閲覧できる他、SL ジャパンのオリジナルでご好評いただいている、各種チュートリアルならびにサンプルプログラムをダウンロードできます。

また、さまざまな構築技法ならびに機能活用でご参考にしていただける豊富な技術資料も掲載しています。

このサイトへのログイン名ならびにパスワードは、保守ご契約中ならびに無償保証期間中のお客様すべてにご案内いたします。

☆SL-GMS オンライン・ドキュメンテーション・サイト: <http://www.sl-j.jp/doc/SL-GMS/>



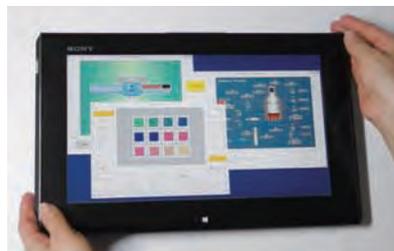
SL-GMS 構築技法セミナー開催のご案内

SL-GMS による、比類なく Web 運用に強い監視制御システムとその専用カスタム・エディタ「構築技法セミナー」開催のご案内

2015年6月5日(金) 15:00-17:00 (無料・事前登録制) @TEPIA(東京・青山)

☆必ず役に立つさまざまな技法のデモと事例による具体的な解説で
ユーザーにも好評の「SL-GMS 構築技法 (.NET, Java) セミナ」:
http://www.sl-j.co.jp/newsevents/seminar/seminar_dotnet.shtml

- Microsoft .NET Framework における Visual Studio 2012 を使った SL-GMS Developer for .NET の Windows フォーム・アプリケーションの開発手順と技法、その Web 運用選択肢3つと技法、SL-GMS J/Developer (Java) による Web 運用システムの開発
- SL-GMS (.NET, Java) を使って開発する監視制御システムで人気のオーバービュー機能やプリンキング機能の実装方法
- Android OS 端末を使った SL-GMS 画面配信、Google マップを活用した監視画面の構築、動的なレイヤ構成
- Windows 10 リリースを間近に、システム更改などにおける OS やフレームワーク間移植
- BIM (Building Information Modeling) 化でビル管理/設備監視などでもフロア図面にて CAD データを活用して DXF ファイルのモデル化など、SL-GMS ユーザー様にも参考になる技法を追加いたします。



Real-Time Visibility



株式会社 SL ジャパン

〒107-0062 東京都港区南青山3-8-5 アーバンプレム南青山 3階
Tel. 03-3423-6051 info@sl-j.co.jp www.sl-j.co.jp

年3回発行 2015年5月27日発行 通巻51号

- ◆記載される会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。
- ◆記載内容は予告なく変更されることがありますので、ご了承ください。
- ◆記載事項の一部または全部の無断転載を禁じます。